

中 学 校

平成 2 3 年度

教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の位置付け	1
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	4
V	研究の内容	
1	研究の題材	4
2	指導上の工夫	4
3	検証授業	
(1)	地理的分野	6
(2)	歴史的分野	15
VI	研究の成果と課題	22

生徒の主体的な学習を促す指導の工夫

～習得・活用を意図的に配置した授業を目指して～

I 研究主題設定の理由

OECDのPISA調査など各種の調査からは、我が国の生徒については、例えば、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題、読解力での成績分布の分散の拡大の背景には家庭での学習時間などの学習意欲、学習習慣・生活習慣に課題、自分への自信の欠如や自らの将来への不安、体力の低下といった課題が見られた。これを受けて、中央教育審議会は、平成17年4月から審議を開始し、この間、教育基本法改正、学校教育法改正が行われ、知・徳・体のバランスとともに、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を重視し、学校教育においてはこれらを調和的に育むことが必要である旨が法律上規定された。中央教育審議会は、上記の課題を踏まえ、平成20年1月の答申を行い、この答申を踏まえ、平成20年3月、学習指導要領が公示された。

私たち教育研究員は日々の授業実践の中で、次のようなことを課題として感じていた。

- ・学習に対する主体性が十分でなく、受け身である生徒が多い。
- ・生徒によって学習内容の定着に著しい差が見られる。
- ・考察や論述の力が十分でない。
- ・学習する社会的事象が現実社会とつながっているという意識が低い。

私たちは、このような課題を克服し、将来にわたって主体的に課題解決に取り組み、社会参画できる生徒を育てていきたいという強い思いをもっている。

教師は授業において、生徒が主体的に学ぶ場면을意図的に設定し、知識、概念や技能を繰り返し活用させることによって、その習得をより確実なものとしたり、思考力・判断力・表現力の伸長を図ったりすることが重要である。これらの改善によって、生徒に充実感や達成感が生まれ、学習に対する自信が付き、学ぶ意欲が向上し、次の学習への積極的な参加が図られるなど、更なる主体的な態度の育成につながると考えた。

本研究ではこうした認識の下、研究主題を「生徒の主体的な学習を促す指導の工夫～習得・活用を意図的に配置した授業を目指して～」とし、授業改善により、生徒の変容をねらっている。

II 研究の位置付け

本研究は、「中学校学習指導要領解説社会編 第3章 指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画の作成上の配慮事項(3)」の本文に示されている「生徒の主体的な学習を促すような構成、展開の工夫」を、授業実践においてどのように具体化すればよいのか、その方策を得ることを目標とした実践研究である。生徒に主体的な学習を促すことにより、基本的な知識、概念の深い理解や技能の習熟が図られたり、社会の変化に主体的に対応できる能力、生涯学習の基盤として必要な自ら学ぶ意欲、課題を見だし追究する能力や態度が育成されたりすることが期待できる。なお、生徒の主体的な学習場面では、言語活動を充実させることとし、基礎的、

基本的な知識、概念や技能の習得とともに、習得した知識、概念や技能を活用したり、自ら考えた意見を交わしたり発表する学習活動を積極的に取り入れることとした。こうしたことにより、多面的・多角的な見方や考え方、表現力を身に付けられるようにし、生徒が学習に対する自信や充実感を感じ、次の学習に対する意欲の向上が図られると考えた。

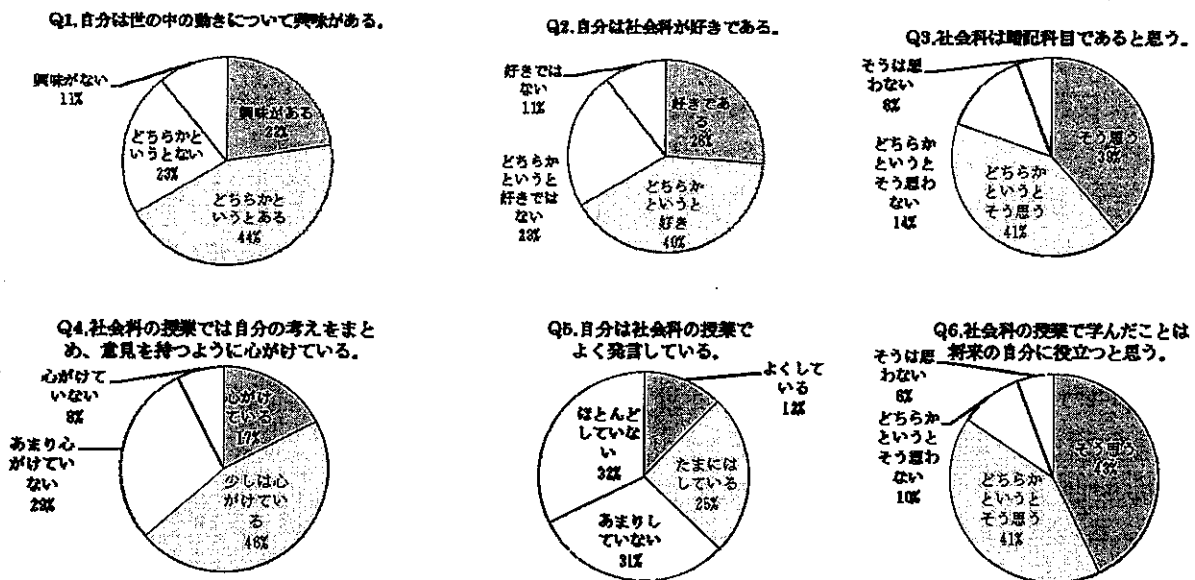
Ⅲ 研究の仮説

研究に当たって、生徒の社会的事象への関心度及び主体的に取り組む意欲や態度の現状を把握するためのアンケートを、研究員の所属校生徒を対象に行った。アンケートの項目は以下の6項目である。

- Q 1 自分は世の中の動きについて興味がある。
 Q 2 自分は社会科が好きである。
 Q 3 社会科は暗記科目であると思う。
 Q 4 社会科の授業では自分の考えをまとめ、意見をもつように心がけている。
 Q 5 自分は社会科の授業でよく発言している。
 Q 6 社会科の授業で学んだことは将来の自分に役立つと思う。

また、Q5で「あまりしていない」「ほとんどしていない」と回答した生徒に対しては、その理由を五つの選択肢から複数回答を求めた。

【資料1】



このアンケート結果をまとめたものが、【資料1】【資料2】である。このことから次のことが明らかになった。

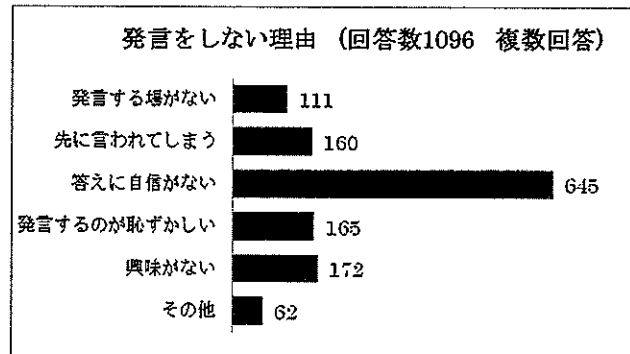
- ・ Q1、Q2で「(どちらかという) 興味がある」「(どちらかという) 好きである」と回答した生徒は、いずれも6割を超えている。
- ・ Q3で「(どちらかという) そう思う」と回答した生徒は、8割に達している。
- ・ Q4で「(少しは) 心がけている」と回答した生徒は、6割を超えている。
- ・ Q5で「よくしている」「たまにはしている」と回答した生徒は、4割に満たない。その一

方で、「あまりしていない」「ほとんどしていない」と回答した生徒は、6割を超えている。

- ・ Q6で「(どちらかというと) そう思う」と回答した生徒は、8割を超えている。

【資料2】

- ・ Q5で「あまりしていない」「ほとんどしていない」と回答した生徒に対して、その理由を複数回答で聞いたところ、「答えに自信がない」と答えた生徒が半数以上に達した。



このアンケート結果を次のように分析

した。

- ・ 社会的事象や社会科が好きな生徒は2/3に達しているが、社会科は暗記科目であると思うと回答した生徒が8割に達するなど、社会科は暗記科目であるという意識が高い。
- ・ 社会科の授業では6割を超える生徒が、自分の考えをまとめ、意見をもつように心がけているが、その一方で授業中に発言しない生徒が6割を超えるなど、授業に対し受動的な生徒が多い。
- ・ 多くの生徒が、意見や考えをもとうという意欲はあるものの、その答えに自信がもてないため、教師が与えた正しい知識を覚えていればよいという程度の受動的な学習に終わってしまっていることがうかがえる。
- ・ 発言しない理由として、「発言する場がない」「興味がない」という意見からは、教師主導の授業が行われていることや用語の意味、社会的事象のみを学習する授業になってしまっていると考えられる。また、「先に言われてしまう」、「発言するのが恥ずかしい」という意見からは、解答に当たって指名する方法や教室内の言語環境の課題、生徒の発達段階による心理的要因によると考えられる。

これらの現状を改善するためには、授業の中で生徒が内面にもっている社会や学習に対する高い関心・意欲を引き出す工夫が必要である。また、生徒が自信をもって発問に答えられるようにするため、授業で学んだことがらを「確かな知識」として定着させていく工夫をしたり、生徒が自ら調べたり、調べた事柄を活用して考えたり表現できたりするような主体的な活動場面を授業に取り入れる工夫が必要であると考えられる。

このことから、学習内容を身近なものとして捉えられるよう教師が配慮するとともに、生徒が主体的に授業に参加できる場面を意図的・計画的に設定すること、自ら調べたりまとめたりする場面設定をすること、生徒が話し合いや学び合いの中で自分の考えを述べたり、自分の言葉で表現し合うなどの言語活動に取り組む場面設定をすることが、生徒の学習意欲や自信の向上、学習内容の定着に効果があると考えた。

本研究では特に、次の三点を研究の視点として授業づくりの際に取り入れることで、生徒の学習意欲や自信の向上、学習内容の定着が図られ、結果、生徒の学習への取組が更に向上すると考えた。

- (1) 単元計画の段階で、1単位時間ごとの授業を通して確実に習得させたい知識、概念や技能を

明確にし、意図的・計画的に配置し、指導する。

- (2) 習得した知識、概念や技能を確かなものにするために、既習事項や本時内で習得した知識・技能等を活用し、主体的に学ぶ場面を設定する。
- (3) 思考力・判断力・表現力を育むために、既習事項や本時内で習得した知識・技能等を活用し、主体的に考察したり表現したりする場面を設定する。

三つの視点を社会科の各単元・各授業の内容との関連を踏まえながら、学びのスパイラルが起こるよう意図的・計画的に設定し、教えることは教師が適切に指導するとともに、生徒自らが調べたり考えたり、自らの言葉で表現したりする活動場面を取り入れていく。それを繰り返す過程で、知識、概念や技能が定着し、自ら考えたり表現したりする習慣や思考力・判断力・表現力が付き、自信が付く。そして、生徒が社会科の授業に対して充実感や満足感を味わうことで、次の社会科の学習に向けての更なる主体的な参加意欲の向上が見られるようになる（仮説）と考える。

IV 研究の方法

生徒の社会的事象への関心及び主体的に取り組む意欲や態度の現状を把握するためにアンケート調査を実施した。また、主体的な授業参加や、授業に対する意欲の向上を測る指標としては、検証授業での授業観察により、個々の生徒の学習活動の変容について分析を行った。生徒の自己評価から、授業に主体的に参加しようとする意欲や態度の変容を分析した。あわせて、検証授業の単元の始めと終わりに、授業での発言や考察への取組みの様子についての意識調査を行い、単元を通して生徒の学習に対する意識がどう変容したかを分析した。さらに、学習内容の定着や思考力・判断力・表現力の向上の効果については、授業のワークシートを分析した。

V 研究の内容

1 研究の題材

仮説の検証を行うため、地理的分野「内容（2）日本の様々な地域 イ 世界と比べた日本の地域的特色」と歴史的分野「内容（1）歴史のとらえ方 ア」で検証授業を実施した。地理的分野では、世界的視野から日本の国土の特色を理解させ、日本の自然環境に関する特色を大観させるとともに、日本を一つの地域として取り扱い、世界的な視野から日本の地域的特色を理解する際の取扱い方について学習する部分でもある。歴史的分野では、小学校における学習を踏まえ、中学校の歴史学習の導入として実施する部分であり、我が国の歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりするなどの活動を行う部分である。それぞれの分野とも、習得した知識、概念や技能が、その後の学習内容や授業で活用できる重要な箇所と捉え、研究の題材に設定した。

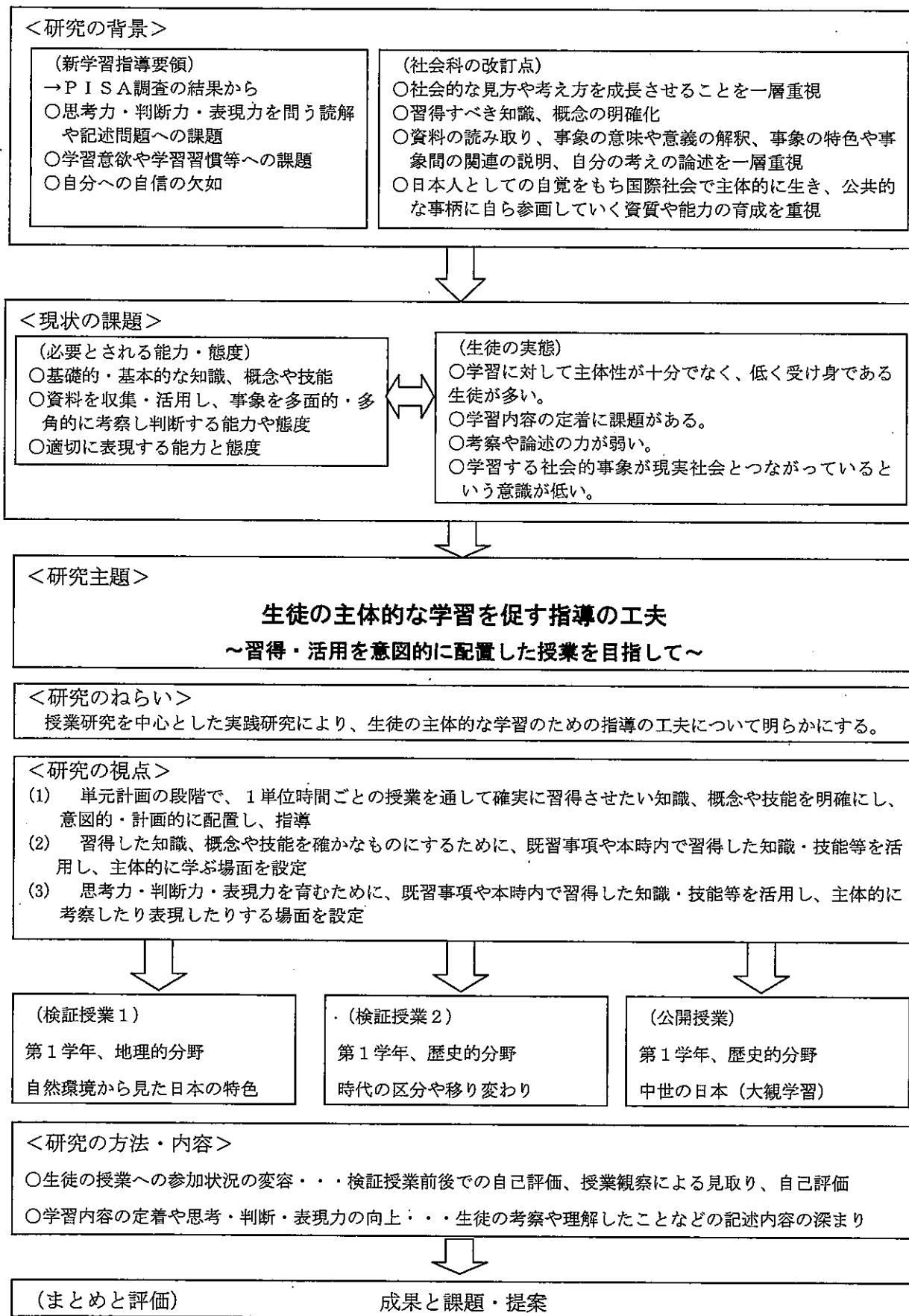
2 指導上の工夫

生徒の主体的な学習を促すために意図した指導上の工夫は、次の2点である。

- (1) 小集団による作業及び話し合い

グループ内で、互いにコミュニケーションを図ることが求められるような作業を取り入れる。

【研究の全体構想図】



グループは生活班を基本とするが、学習内容によって人数構成は変更する。今までに習得した知識や技能を活用し、学習課題の解決に必要な資料を自分たちの手で作成することで、授業への関心・意欲や資料活用の技能を高めることを目指した。

また、作成した資料を基に学習課題に対して分析、考察し、その結果をグループ内で相互に発表し合い、その上で改めて各自が考察する時間を設けた。自分の考えを発表する際は、今までに習得した知識を活用して表現させるように留意した。意見を交わすことで、多様な見方・考え方があることに気付かせ、思考力・表現力・表現力を高めることを目指した。

(2) ワークシートの活用

生徒が確実に習得すべき知識、概念（見方・考え方）を明確に認識するとともに、資料の読み取りや分析、学習課題に対する考察等を自分の言葉で表現させるように、ワークシートの構成をした。特に地理的分野では、授業終了後に、本時で理解し習得した知識、概念を、自分の言葉で記述する「学習のまとめ」と「自己評価」の項目を設け、知識・概念の確実な習得を促す工夫をした。

習得させたい知識、概念や技能についてポイントとなる「資料づくり」「資料の読み取り」「資料分析」を、今までに習得した知識、概念や技能を用いて行う。その際、グループで作業することや、自分の考えを自分の言葉で表現し、グループ内で発表し合う場面を設定することで、生徒の主体的な授業参加を促す。このような学習活動によって、基礎的・基本的な知識、概念や技能が定着するとともに、思考力・判断力・表現力が高められ、今後の学習に対する関心・意欲の向上につながると考えた。

3 検証授業

(1) 地理的分野

ア 単元名

日本の様々な地域 世界と比べた日本の地域的特色 自然環境

イ 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領の大項目 日本の様々な地域、中項目 世界と比べた日本の地域的特色 小項目 自然環境を、全8時間で構成している。本単元の内容は、中学校社会科の目標にある我が国の国土に対する理解を深めるための学習の一つで、世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させることである。

小項目は、我が国の地域的特色を自然環境の面から理解させることを主なねらいとしている。研究主題である「生徒の主体的な学習を促す指導の工夫」の一つとして、与えられた地震年表（資料）を基に、自分たちで地震の分布図を作成し、分布図から分かることを既習事項を活用し自分の言葉で表現させる。この学習活動を通じて、生徒の主体的な学習を促すことを目指している。また、単元全体を通して、生徒に確実に習得させたい知識、概念や技能を明確化し、習得した知識の活用場面を単元内で計画的に配置することで、生徒の関心・意欲・態度の向上を図る。

ウ 単元の目標

与えられた資料を活用した分布図の作成、既習内容を活用した分析や説明、複数の資料を関連付けて比較・検討等を行うことで、世界的視野から、日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる。

エ 単元の指導計画

時	主な学習内容 習得させる●知識 ■概念 ▲技能	習得した知識の活用場面	評価規準
1	<p>世界の地震や火山の分布</p> <p>▲地震の分布図の作成と読み取り</p> <p>●造山帯、山がちな地形</p> <p>■世界と比較して日本を一つの地域として見る見方</p>	<p>・地図帳を活用し、世界の主な地震の分布図を作成し、地震の多い地域を考察する。</p> <p>・造山帯があることによって生じている日本の自然環境に関する特色について考えさせる。</p>	<p>・作成した分布図から、地震の多い地域を読み取っている。</p> <p>・造山帯の意味や位置を理解している。</p> <p>・世界と比べた日本の地域的な特色を理解している。</p>
2	<p>日本の地形の特色（山脈、川）</p> <p>▲日本の山脈・山地の略地図の作成と読み取り</p> <p>▲世界と日本の川の特徴の比較</p> <p>●日本の地形の割合、川の特徴</p> <p>■山地や川が作り出す日本の地形</p>	<p>・地図帳を活用し、日本の山脈・山地の分布についての略地図を作成し、分布について考察する。</p> <p>・統計資料から、日本の川の特徴を捉え、その理由を考察する。</p> <p>・日本の川の特徴については、日本の山地の割合が多いことと関連付けて理解させる。</p> <p>・日本の地形の特色を理解する。</p>	<p>・作成した略地図から、日本の山脈・山地の特徴を読み取っている。</p> <p>・資料の比較から、日本の川の特徴を読み取っている。</p> <p>・川の特徴と地形の割合の関連を理解している。</p>
3	<p>日本の地形の特色(平野と盆地、海岸)</p> <p>▲東北新幹線とフランスの高速鉄道のトンネル数の比較</p>	<p>・地図帳でトンネルが多い日本の地形はどのようなものか考え</p>	<p>・比較を通して、日本とフランス</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ●日本の地形(平野・盆地・台地、扇状地、三角州、リアス式海岸) ■日本全体の地形の特色の概要 	<p>させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山がちな地形、そこを流れる川によって、特徴的な地形を作り出していることを理解させ、その土地の利用方法について考察させる。 	<p>の地形の違いを読み取っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の主な地形の特色を理解している。 ・日本における山地、川、平野の分布の概要を理解している。
4	<p>世界の気候と日本の気候</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲世界の気候分布図の作成 ●雨温図の読み取り方 ●五つの気候区分 ▲世界各地の雨温図の分類 ■気候面で見ると世界と日本 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を活用し、世界の気候に関する分布図を作成する。 ・日本と世界各地の気候を比較し、各地域の気候を捉える。 ・気候分布図から、世界と日本の気候の特徴を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気候分布図をまとめている。 ・雨温図の見方を理解している。 ・気候区分を理解している。 ・雨温図を通して、日本と世界の気候の違いを読み取っている。 ・世界の中における日本の気候の特徴を理解している。
5	<p>世界の気候と各地の暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲雨温図と世界の地域の写真との組み合わせ ●温帯の地域による違い ■気候が影響を与える特色(衣・食・住) 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨温図から、地域の様子を考えさせる。 ・各気候帯が生活にどのような影響を与えているか、各地域の服装や食事、住居などを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨温図を通して、地域の様子を読み取っている。 ・温帯の気候区分を理解している。 ・気候と生活との関連性を理解している。

<p>6 7</p>	<p>日本の気候の特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲統計資料を基にした各地の雨温図作成と読み取り ●気候に影響を与える自然現象(季節風、フェーン現象、海流) ●日本の気候の特色 ■気候と生活との関連 	<ul style="list-style-type: none"> ・統計資料を活用し、各地の雨温図を作成し、地域と結び付けさせる。 ・各地の写真と雨温図を組み合わせ、なぜそのような気候になるのか、学習した知識を活用し考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨温図を作成し、その特徴を読み取っている。 ・日本を取り巻く自然現象を理解している。 ・日本各地の気候の特色を理解している。 ・雨温図から気候の特色を理解し、気候がその地域の生活に与える影響を理解している。
<p>8</p>	<p>日本の様々な自然災害</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲自然災害発生理由の読み取り ●日本で起こる自然災害(地震・津波・台風・火山の噴火・冷害など) ■災害から見る日本の地域的特色 ●自然災害への対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を活用し、ある地域の自然災害を取り上げ、自然災害発生理由を考えさせる。 ・一事例を全体的な社会的事象につなげる授業展開を行う。 ・日本の地域的特色を踏まえ、自然災害への対策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地形の特色と自然災害の関連を読み取っている。 ・自然災害から日本の地域的特色を大観している。 ・地域の実情に応じた対策を理解している。

オ 本時の指導内容

(ア) 本時の目標

- ・ 世界における地震の分布図の作図及び読図を通して、世界的視野から日本の地形の特色を捉える。
- ・ 造山帯の意味とその分布について理解する。

(イ) 本時の展開

	学習項目 学習内容・生徒の活動 ◆予想される生徒の反応	視 点	指導上の留意点 ★評価規準と評価方法
導 入	<p>単元の見通しと本時の学習課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の学習ポイントを理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 世界的視野から日本の国土の特色を理解する。 日本の自然環境に関する特色を大観する。 地震について仮説を立てる。 日本は地震が多い国であるか。 		
展 開	<p>日本の自然環境の特色</p> <p>〔作業〕</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>グループで分担して、世界の地域別の地震発生分布図を作成する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 資料「地震年表」を見て、グループごとに地域別の分布図を作成する。 地震の発生した場所にシールを貼る。 完成した後、黒板に掲示する。 <p>〔学習課題①〕</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地震の分布図から読み取れることは何か。今まで学習した語句を使って説明しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題に対し、読み取ったことをワークシートに記入する。 読み取ったことを席の近くの人と話し合う。 <p>〔学習課題②〕</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地震が多い地域はどのような場所だろうか。また、そのような場所にはどのような共通点があるかを考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 教科書や資料集を使って調べる。 席の近くの生徒と話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ◆火山の噴火が多い ◆険しい山脈が連なる長い二つの帯 → 環太平洋造山帯、アルプス=ヒマラヤ造山帯 造山運動についてビデオを見て確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ◆造山運動を受けた地帯 ◆地下の活動が活発（地殻変動が顕著） 	<p>(2)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p>	<p>★資料や地図帳を活用し、地震の分布図を作成している（技能／ワークシート）。</p> <p>★分布図から地震の多い地域を読み取っている（技能／ワークシート）。</p> <p>★読み取ったことを相手に伝えている（思考・判断・表現／観察）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数人の生徒に発言させる。 地震の多い地域と火山の噴火が多い地域、険しい山脈が連なる地域は共通点があることを指摘する。 地震の分布図、火山分布の資料、世界の地形と比較させる。 ビデオ視聴後、造山帯の位置を確認させる。 なぜ地震が多いのかということ

	<p>◆不安定</p> <p>造山帯という語句を習得する。</p> <p>日本の地形の特色 〔学習課題③〕</p> <p>世界的視野から日本の地形の特色をまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の地形の特色をワークシートにまとめる <ul style="list-style-type: none"> ◆環太平洋造山帯に属する。 ◆地震や火山の噴火が多い。 ◆利点（メリット）…温泉、地熱発電、景観がよい。 ◆不利な点（デメリット）…災害をもたらす。 ◆山地が多い（山がちな国土）。 	<p>につなげる。</p> <p>(1) ★造山帯の意味、位置を理解している（知識・理解／ワークシート）。</p> <p>(2) ★世界的視野から見た日本の地形の特色を考察している（思考・判断・表現／ワークシート）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然災害は、次時以降で取り扱うので、ここでは深く扱わない。 導入での仮説を確認させる。
ま と め	<p>振り返りと学習課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに本時において分かったこと、疑問に思ったこと、今後調べてみたいことを記入する。 	

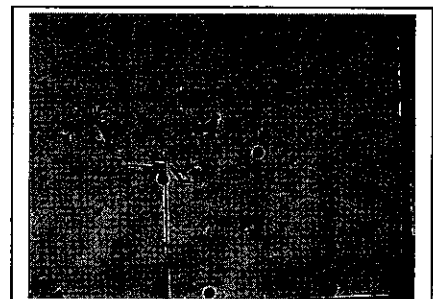
カ 成果と考察

本時では、地震の分布図を作成するに当たり、世界地図を六つの地域（州）に分け、グループで分担して、地震年表を基に地震の発生した場所にシールで記した。各グループが作成した六つの分布図を合わせ、世界の地震の分布についておおまかに捉え、日本が地震の多い国であることを確認した。続いて、世界の山脈と火山の分布図を関連付けて見ることで、世界には二つの造山帯があり、日本はその一つの造山帯に位置していることを同様の学習活動で確認した。このような授業の過程によって、研究の仮説を検証した。

(ア) 本時の成果と課題

① 研究の視点(1)について

本時の目標の一つである造山帯の意味とその分布について理解するために、地震が多い地域の共通点について、完成した地震の分布図と火山の分布及び世界の地形から考えた。共通点として、火山の噴火が多い、険しい山脈が連なる長い二つの帯があるなどの意見があり、造山帯という語句を習得するのに有効であった。



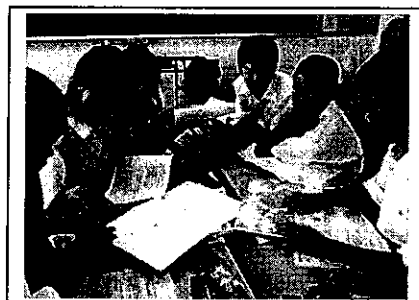
② 研究の視点(2)について

地震の分布図を作成する際、地域名（州名）や地名などは索引を利用して調べることもできていたことから、1学期に学習した地図帳の使い方を基に、地図帳を十分に活用していたことがわかる。さらに、自分たちが作成した分布図を見ながら世界の様子を大観する場面では、既習事項である大陸名、地域名（州名）、緯度・経度、方位等を使って表現することができていた。このことから、ほとんどの生徒が既習事項を活用することにより、習得した知

識、概念や技能が確かなものになったと考えられる。

③ 研究の視点(3)について

本時では、地震の分布図の作成、世界的視野から日本の地形の特色を大観すること、地震の分布と火山や主な山脈の分布の共通点を見いだすことにおいて、自分で考え、表現し、近くの人と意見を交わす場面を設定した。授業観察において、多くの生徒は自分で考え、意見を交わす姿が見られた。ワークシートの自己評価において、「グループや近くの人と積極的に話し合うこと」が、「と



てもよくできた」「よくできた」と答えている生徒が6割を占め、「できた」を含めると8割以上に達した。ワークシートにおける記述では、学習課題①の考えをグループで積極的に話し合ったことで、本時のまとめでは、表現に広がりや深まりが見られた。

④ 全体を通して

授業での作業や話し合いの様子では、それぞれ積極的に取り組んでいる姿が見られ、自己評価からも、ほとんどの生徒がグループの中で発言していたことが分かる。自分の意見を表現することに関しては、多くの生徒が達成できたと言えるが、自分の意見を表現できない生徒も若干いた。さらに、習得させたい知識につながる資料を、今までに学んだ知識や技能を活用して、生徒が地震の分布図を作成することは、ワークシートに、習得した知識、概念の記述が多く見られ、さらに、地図帳を1学期に学習したように活用できたことから、習得した知識、概念や技能を確かなものにするために有効であった。そして、生徒は、地震の分布図と火山の分布、世界の主な山脈の分布との共通点から、「造山帯」という概念を理解することができた。単元計画の段階で、本時で確実に習得させたい知識、概念や技能を明確にし、指導したことは有効であった。また、グループで話し合うことで、自分の考えを發表すると同時に、他人の發表を聞くことを通して、生徒の理解は更に深まった。それは、「学習のまとめ」への記入で、「今日の学習で分かったこと」をよく書けていた生徒が多くいたことから検証できた。ただ、内容的には、世界の様子をおおまかに捉えた内容と世界と比べた日本の特色をつかんだ内容に分けて記述している生徒が少なかったため、この点については授業者の指摘が不十分であったといえる。「学習のまとめ」では、「疑問に思ったこと、更に調べてみたいこと」についても記述させたが、地震や地震による災害について詳しく知りたいと書いた生徒が多く、単元計画8時間目の「日本の様々な自然災害」の内容にうまくつなげることができた。

(イ) 単元の成果と課題

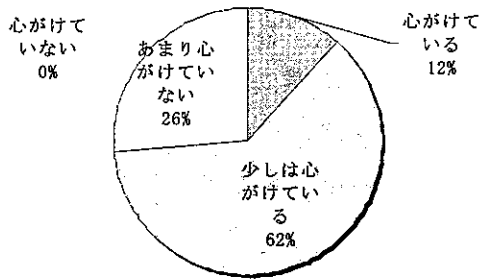
研究に当たって実施したアンケートを単元終了後に再度行い、生徒の変容を見た。このアンケートを集計したのが、【資料3】であり、これを次のようにまとめた。

- ・ 「社会の授業では自分の考えをまとめ、意見をもつように心がけている。」という問いでは、「心がけている」「少しは心がけている」の割合は、74%から85%に増加した。
- ・ 「自分は社会の授業でよく発言している。」という問いでは、「よくしている」「たまにしている」の割合は、15%から76%に増加した。

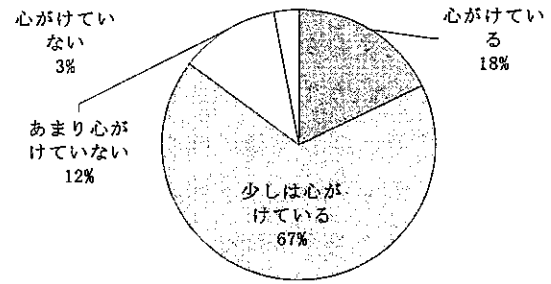
【資料3】生徒アンケート事前

事後

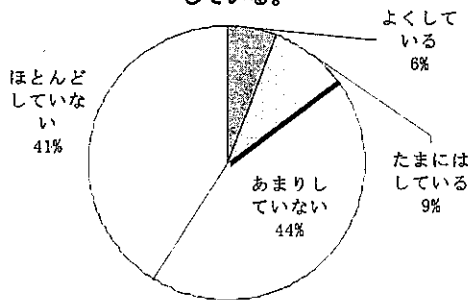
Q2,社会科の授業では自分の考えをまとめ、意見を持つように心がけている。



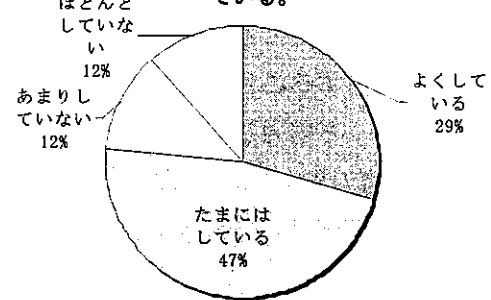
Q2,社会科の授業では自分の考えをまとめ、意見を持つように心がけている。



Q3,自分は社会科の授業でよく発言している。



Q3,自分は社会科の授業でよく発言している。



- ・ 「社会科の授業で学んだことは将来の自分に役立つと思う。」という問いでは、「そう思う」「どちらかというそう思う」の割合は、76%から88%に増加した。
- ・ 「社会科の授業では自分の考えをまとめ、意見をもつように心がけている。」という問いにおいて、心がけている理由として次のような回答が得られた。
 - 「意見をもたないと授業に参加している気がしない。」
 - 「少しでも理解するため。」
 - 「授業が楽しくなると思うから。」
 - 「自分の勉強になるから。」
 - 「自分で整理して分かりやすくするため。」
 - 「自分の考えが合っているかそうでないか分かるから。」
 - 「社会科が得意になりたいから。」
 - 「次の課題につながるかもしれないから。」 などである。
- ・ 「自分は社会科の授業でよく発言している。」という問いで、発言する理由を答える記述では、「授業にしっかりと参加するため。」「自分の意見をみんなに聞いてもらいたいから。」「今までは意見に自信がなかったが、少しずつ発言できるようになってきた。」などの回答があった。
- ・ 「数時間の授業を受けて何か変わった点がありますか。」という問いで、数人の生徒から「ワークシートに積極的にメモをとるようになった。」「興味がわいてきた。」「社会科がおもしろくなってきた。」「授業態度が変わった。」「前より発言できるようになった。」「よく理解できるようになった。」「ワークシートに自分の考えを書くようになった。」「世界や日本に

興味をもつようになった。」「授業への取組がよくなった。」「話を聞いて自らワークシートに記入するようになった。」などの回答があった。

このアンケート結果から次のような分析をした。単元の学習を終えて、「社会科の授業では自分の考えをまとめ、意見を持つように心がけている」、「自分は社会科の授業でよく発言している」という生徒の割合が増加したことは、主体的に授業に参加し学習する生徒が増えたと判断でき、学習意欲の向上に効果があったと考えられる。そして、既習事項を活用する場面を多く取り入れることにより、地理的事象に関する知識、概念や技能の定着を図るのに効果があったと考えられる。

さらに、ワークシートの記入状況から生徒の変容を見た。8時間設定の単元で、毎回ワークシートに記入すること、自分の考えと共にグループ構成員の発言を記録すること、教科書や資料集の内容を参考にして記述することなどができるようになったり、取組もうと努力したりする生徒が増えていた。また、「学習のまとめ」が授業の学習内容から離れてしま



まう、単語だけで終わってしまう、1行程度しか書いていない生徒が、世界の自然環境をおおまかに捉えることと、世界的視野からみた日本の特色をつかむことを基に、自分でよく考えて記述するように指示することにより、ポイントを押さえたまとめを記述することができるようになってきた。今後このような授業を行っていくことで、思考力・判断力・表現力の伸長が期待できると考える。

課題としては、次のようなことが挙げられる。アンケートの「自分は社会科の授業でよく発言している。」という問いにおいて、「あまりしていない」「ほとんどしていない」と回答した割合が、単元の学習後においても24%であるということ、また、発言をしない理由については、「正解かどうか不安だから。」「発言に自信がないから。」「発言して間違えたらいやだから。」などが見られたことは、本単元の学習における課題を示している。今回は単元を通して、グループでの話し合いを積極的に行うように指導した。単元の1時間目の授業では、ほとんどの生徒がグループの中で発言することができていたが、数時間の授業を通してみると、積極的に発言できなかった生徒の姿が見られた。今後、このような生徒たちに対して、授業中はこまめに机間指導を行い、適切な支援を行うこと、授業後はワークシートの記述や自己評価を一つ一つ丁寧に見て、個々にアドバイスを与えていくような工夫が必要である。

また、グループでの話し合いが活発になったこと自体は意味のあることであるが、学習の課題によっては、個々の発言の内容が今まで学習してきたものを活用して表現できているかどうかなど確認する必要がある。さらに、今後は、一人一人の思考力・判断力・表現力の伸長を把握し、評価の方法についても検討していく必要がある。

キ 資料（生徒に配布したワークシート）

地理ワークシート 3部 世界と比べてみた日本 1章 さまざまな面からとらえた日本

1 自然環境の特色をとらえよう ①世界の地震や火山の分布

【学習課題①】 地震の分布図から分かることは何か、学習した語句（大規模、大活火、活断層）を使って説明しよう。

【学習課題②】 他の資料を参照して、地震が多い地域はどういう場所なのだろうか、どのような共通点があるのだろうか。

◆造山帯とは・・・

【学習課題③】 世界と比べた日本の特色をまとめよう。

【学習のまとめ】

<p>1「世界の地震や火山の分布」の学習でわかったことをまとめよう。</p> <p>2 今回の学習で疑問に思った点、調べてみたい事がありますか。</p>	<p>自己評価 の2段階評価</p> <p>① 分布図を正確に作れましたか。 1 2 3 4 5</p> <p>② 学習課題に対して、自分の考えを出すことができましたか。 1 2 3 4 5</p> <p>③ 別で或くの人と積極的に話し合っていましたか。 1 2 3 4 5</p> <p>④ 中心内容、は理解できましたか。 1 2 3 4 5</p>
---	---

(2) 歴史的分野

ア 単元名

歴史のとらえ方 我が国の歴史上の人物や出来事など 身近な地域の歴史

イ 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領の大項目（1）歴史のとらえ方を取り上げ、全8時間で構成している。

学習指導要領解説において、中項目の内容は「我が国の歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりするなどの活動を通して、時代の区分やその移り変わりに気付かせ、歴史を学ぶ意欲を高めるとともに、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解させる」とある。内容の取扱いには、「中学校の歴史学習の導入として実施することを原則とすること。小学校での学習を踏まえ、扱う内容や活動の仕方を工夫して、『時代の区分やその移り変わり』に気付かせるようにすること」とある。また、イについて、ねらいに「身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄との関わりの中

で我が国の歴史を理解させるとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせる」とある。内容の取扱いには「地域の特性に応じた時代を取り上げるようにするとともに、人々の生活や生活に根ざした伝統や文化に着目した取扱いを工夫すること」とある。

そこで本単元では、まず中項目アについて、小学校で学んだ内容を基に、小学校の復習と、中学校の歴史学習の導入として学習意欲を高めることを目的とし、「歴史上の人物あてゲーム」を展開することとした。出題、解答の両方を生徒が行い、班ごとに競い合うという活動的なゲーム形式の授業を通して、生徒が主体的に学習することで、また、小学校で習得した知識を問題作りに活用することで、今後の学習意欲の向上につなげることができると考えた。

「時代の区分や移り変わりに気付かせ」という部分においては、新たに設定された、大項目(1)の中項目ウ「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動」につながる内容として、次の学習活動を行うこととした。出題者は時代の特色を表すキーワードを考える。出題した人物とその時代の特色についてキーワードを自ら文章にして表現する。ゲームのまとめとして年表を作成し、時代のキャッチコピーを考える。これらの活動を通して研究の仮説が検証できると考えた。

イについては、学校の脇を流れる「呑川」、野毛の古墳、代官屋敷など区内にある身近な地域の歴史を取り上げて班ごとに調べ、作成した年表に地域の歴史も書き込むことで、地域への関心を育て、我が国の歴史に、より具体性と親近感をもたせながら、その理解を深めることが可能である。また、発表という形式の授業により、主体的に取り組む姿勢を養い、これまでの学習成果をまとめることができると考えた。

本部会では、歴史的分野の最初の単元を通して、生徒が知識や技能を活用して主体的に学習し、また、主体的に考察したり表現し合ったりすることで、思考力・判断力・表現力を伸ばすことができると考えた。また、本学習を通して、授業者が、生徒の既習知識の定着度を確認し、学習に対する意欲の確認を行うことで、今後の学習に適切な指導・助言ができると考えた。

ウ 単元の目標

- ・歴史の学習に興味・関心をもたせるとともに、時代の区分や移り変わりに気付かせることを通して、年表の表し方や時代区分について基本的な内容を理解させる。
- ・身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を深めるとともに、歴史の学び方を身に付けさせる。

エ 単元の指導計画

時	主な学習内容 習得させる●知識 ■概念 ▲技能	習得した知識の活用場面	評価規準
1 本 時	歴史人物当てゲーム ●歴史上の人物名 (「聖徳太子」「聖武天皇」「藤原道長」「源頼朝」「足利義満」「豊臣	・人物や時代を表すキーワードを考える。 ・出題する順番も考えながら、	・歴史上の人物について、出来事や業績、時代

2 ・ 3	ひでよし「徳川家光」「伊藤博文」と業績、それぞれの人物が活躍した時代の特色) ▲教科書・資料集の読み取り	漢字一文字のヒントを作成する。 ・歴史上の人物について、業績や時代の特色を文章で表現する。	の特色などに関するキーワードを的確に選択し、まとめている。
4 ・ 5	年表の作成 ・年代の表し方・時代区分 ▲年表の作成 ■各時代の特色 ●時代を区切ること、年代の表し方	・歴史上の人物が活躍した時代を年表に記入する。 ・時代の特色と移り変わりを考察する。	・年表に歴史上の人物を当てはめている。 ・時代の特色と移り変わりを理解している。
6 ・ 7	世田谷区の歴史（調べ学習） ・▲■世田谷区の歴史	・身近な地域の歴史について調べ理解を深める。	・身近な地域の歴史について理解している。
8	世田谷区の歴史（発表） ▲発表	・身近な地域の歴史について考察したことをまとめ、発表する。	・自分で調べたことを発表している。

オ 本時の指導内容

(ア) 本時の目標

- ・我が国の歴史上の人物について、出来事や業績、時代の特色などに関するキーワードを的確に選択し、適切な言葉で表現する。
- ・我が国の歴史上の人物に関心を持ち、歴史学習に対する意欲を高める。

(イ) 本時の展開

	学習項目 学習内容・生徒の活動	視点	指導上の留意点 ★評価規準と評価方法
導入	歴史人物当てゲームの説明 ・ゲームの説明を聞いて、ルールを理解する。 ・ヒントのつくり方、ヒントの提示の仕方、答え方、文章の作り方などを「歴史人物当てゲームのルール」のプリントを読みながら説明する。		・例として「聖徳太子」について教師が出題する。その際に、聖徳太子の業績にとどまらず、あすか飛鳥時代の特色を捉えられるように留意する。
展開	歴史人物当てゲーム 【ヒントの作成】		・学習グループ（4名×7グループ）を設定する。

<p>①グループごとに与えられた人物について、その人物の業績、活躍した時代の特色に関するキーワードを考え、そこから六つのヒント（漢字一文字）を作る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>小学校で学んだ、政治に関係した人物をお題として与える。以下の人物の名前を封筒に入れグループごとに選ばせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「<small>しやうとくだいし</small>聖徳太子」「<small>しやうむてんのう</small>聖武天皇」「<small>かじわらのみちなが</small>藤原道長」 「<small>みなとりのよりとも</small>源頼朝」「<small>あしかがよしみつ</small>足利義満」「<small>とよとみひでよし</small>豊臣秀吉」「<small>とくがわ</small>徳川家光」「<small>いとうひろがみ</small>伊藤博文」</p> </div> <p>②すぐに正解されないように提示する順番を考える。</p> <p>③ヒントを全て入れて、その人物の業績や関係する出来事、時代の特色などを説明する文章を考える。</p> <p>④グループごとに、できたヒントと説明文のチェックを受ける。</p> <p>【ゲームの開始】</p> <p>①1グループが出題し、他6グループが解答する。</p> <p>*出題班 ボードを持って前に並び順番にヒントを提示する。</p> <p>*解答班 ヒントを見て人物名をグループで考え、分かった時点で先生に伝えるに行く。</p> <p>・全てのグループが解答するか、ヒントを全て提示し終わった時点でゲームを終了する。</p>	<p>(2) ★出来事や業績、時代の特色などに関するキーワードを的確に選択している（技能／ワークシート）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにキーワード、ヒントを記入し、ヒントは一字ずつボードに書くことを説明する。 <p>(3) ・教科書や資料集を参考にしてもよいこと、ヒントを提示する順番は難易度の高いものからにすることを伝える。</p> <p>(3) ★ヒントを使い、人物を説明する文章を考察している（思考・判断・表現／ワークシート）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代の特色の説明が十分になされているかを確認し、必要ならば助言を行い、文章を付け加えさせる。 ・全体の様子を見て次のヒントに移るタイミングを合図する。 <p>(3) ★人物のキーワードを適切な言葉で表現している（思考・判断・表現／ワークシート）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話合いの声の大きさに気を付けるように指示する。 ・各グループ班のポイントを発表する。 <p>(1) ★既習事項を活用して解答している（知識・理解／観察）。</p>
--	---

ま と め	作成した文章の発表 ・ゲームの出題グループは、担当した人物についての業績・時代の特色を説明する。	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・全てのヒントが説明文に入っているか確認する。 ・人物のパネルを提示し、簡単に解説をする。 ★人物について、業績や時代の特色を踏まえて、説明している (思考・判断・表現/ワークシート)。
-------------	---	-----	---

カ 成果と考察

(ア) 本時の成果と課題

本研究主題である「生徒の主体的な学習を促す指導の工夫」を実践するために、検証授業ではグループ対抗によるゲーム形式の要素を取り入れた。

なお、本研究の主題に迫るための研究の視点との関わりにおいては、「(1) 単元計画の段階で、1 単位時間ごとの授業を通して確実に習得させたい知識、概念や技能を明確にし、意図的・計画的に配置し、指導する」ことを踏まえ、本授業が「歴史学習の導入」である点を強く意識し、単元計画において、ゲーム形式の要素を取り入れることで生徒の興味・関心を引き出し、今後の「生徒の主体的な学習を促す」ための授業として明確に位置付けたことが、まず挙げられる。

また、残りの二つの研究の視点である「(2) 習得した知識、概念や技能を確かなものにするために、既習事項や本時内で習得した知識・技能等を活用し、主体的に学ぶ場面を設定する」、「(3) 思考力・判断力・表現力を育むために、既習事項や本時内で習得した知識・技能等を活用し、主体的に考察したり表現したりする場面を設定する」に関しては、授業を構成するに当たり、主として「活用」を意識した組立てを行った。本時における「活用」とは大きく分けると以下の三つである。

- A 小学校で習った歴史人物に関する知識の活用
- B 歴史人物の説明をするのに必要とする資料の収集、活用
- C 考察、表現場面における知識や技能の活用

Aについては、小学校時代に社会科の歴史の授業で習った人物に関する知識をヒント作りに生かす、又は出題されたクイズに解答するという意味での活用であり、「既習事項の知識を活用する」という点で、研究の視点(2)と関連している。

Bについては、ヒント作りにおいて、教科書や資料集を用いて、歴史人物を説明するために必要とする情報を的確かつ迅速に収集するという意味での活用であり、「本時で習得した知識を活用する」という点で、こちらも研究の視点(2)と関連している。

Cについては、ヒントを出す順番を考える際に、難易度の高いものから徐々に下げていくように工夫する、言い換えれば、グループでの話し合いを通して、ヒントの内容を吟味し、出題の考察を行うという意味での活用であり、「主体的に考察したり、表現したりする場面における知識や技能の活用」という点で、研究の視点(3)と関連している。

以下、授業の検証の結果を視点に沿って整理した。

① 研究の視点(1)について

本時においては、小学校で学習した歴史上の人物をグループごとに取り上げ、その人物の業績、活躍した時代の特色を調べる活動を通して、さらに、他のグループの出題に対して解答することにより、理解を深めた。生徒に、確実に習得させたい知識を明確にし、指導したことは、今後の歴史学習を進める上で有効であった。

② 研究の視点(2)について

ヒント作りの際に行う教科書や資料集などを用いた調べ学習では、多くの生徒が、意欲的に取り組んでいた。また、事前アンケートで「ふだん発言をしない」と答えていた生徒が、事後のアンケートにおいて「グループのなかでは自分の意見を伝えることができた。」「楽しかったので発言できた。」「少人数でなら発言できる。」「知っているが多かったので発言できた。」などと回答していた。このことから、既習事項や本時内で習得した知識・技能等を活用し、主体的に学ぶ場面を設定したことは、習得した知識、概念や技能を確かなものにするために有効であった。



③ 研究の視点(3)について

今回の検証授業では、ヒント作りを進める際に全てのグループにおいて、歴史上の人物に関わる出来事や業績、時代の特色などのキーワードについて、自力で教科書や資料集などを用いて的確かつ迅速に調べ、その抽出と選択を行うことができていた。授業後の生徒の自己評価では、93%の生徒が、「グループでの話合いに積極的に参加した」と答えている。また、ヒントを提示していく順番についても、グループごとの工夫を見ることができた。これらのことから、既習事項や本時内で習得した知識・技能等を活用し、主体的に考察したり表現したりする場面を設定することは、思考力・判断力・表現力を育むために有効であった。



また、ヒントを提示していく順番についても、グループごとの工夫を見ることができた。これらのことから、既習事項や本時内で習得した知識・技能等を活用し、主体的に考察したり表現したりする場面を設定することは、思考力・判断力・表現力を育むために有効であった。

③ 全体を通して

検証授業では、4人で一つのグループを構成し、参加意欲を高めるような学習環境をつくった。4人グループでは、各自の役割が明確となるとともに、少人数のため意見を出しやすい環境となり、全員が主体的に活動に参加できると考えたからである。こうした工夫も、積極的に生徒が授業に取り組めた要因になったと考える。また、アンケート結果からもグループ活動を通して自信を深めていく様子をうかがうことができた。

また、グループ活動であれば、全ての生徒が、例えば他の生徒の活動を参考にしながら該当する人物の教科書や資料集などで必要なページを開くことができる。そのため、全員が学

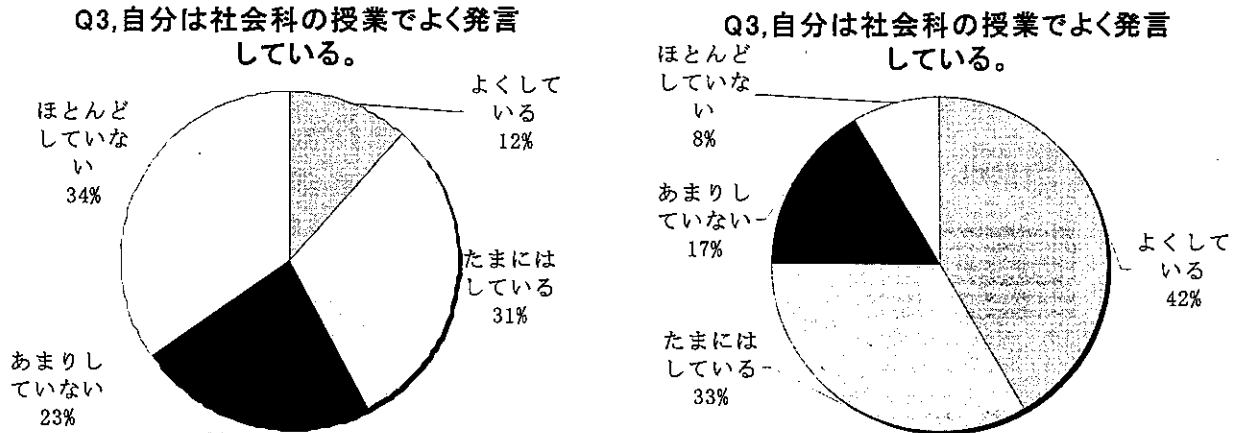
習活動に参加し、ゲームに関わることができるという効果も、併せて確認することができた。

(イ) 単元の成果と課題

研究に当たって実施したアンケートを単元終了後に再度行い、生徒の変容を見た。このアンケートを集計したのが、下の【資料4】であり、これを次のようにまとめた。

【資料4】生徒アンケート 事前

事後（単元学習後）



- ・ 「社会科の授業ではよく発言している。」という問いでは、「よくしている」「たまにはしている」の割合は、43%から75%に増加した。
- ・ 単元の学習を終えた生徒の感想の中に、「自分たちの地域の歴史を調べることで、様々な発見があり楽しかった。」「もっと地域の歴史について調べてみたい。」などの感想が多く寄せられた。
- ・ 事前アンケートで「社会科が好きではない」と答えていた生徒の中には、意欲的に学習に取り組むようになった結果、その後の定期考査で大幅に点数を上げた者もいた。

このアンケート結果から次のように分析した。

研究の視点を踏まえた単元計画の立案及び（今回の検証授業を含めた）毎時間の授業の実践を行うことで、既習事項や習得した知識や技能等を活用し、主体的に学習する姿が見られた。このことにより、研究主題「生徒の主体的な学習を促す指導の工夫」について、一定の成果を得ることができたと考える。単元後の生徒の感想にあるように、今後の歴史学習への関心や意欲を喚起することができたという意義は大きい。

しかし、いくつかの課題が残った。1点目は、今回の検証授業において、教科書や資料集の索引を活用すべき場面であっても、索引を使うことができない、又は人名索引と事項索引の区別がつかない、といった生徒がおり、そのような生徒に、今後どのような指導を行うか、またどのようにして基礎学力を身に付けさせていくかという点である。

2点目は、人物や時代に関するキーワードを収集・選択し、それらに関連付けて文章にまとめるという表現活動については、苦手としている生徒が数多くいるということである。このことを克服していくためには、しっかりとした単元計画の下、継続性をもたせて実践する場面を授業内で与えていく必要があるということである。

キ 資料（生徒に配布したワークシート）

歴史人物当てゲームのルール
 ～小学校で学んだ歴史上の人物名、出されたヒントから考えよう～

①問題を出す時と解答前に行われます。
 ②問題を出す時は、小学校で学んだ歴史上の人物についてのヒントを漢字一文字で読み取っていただきます。
 ③解答はわからない場合はヒントをもう一度読んでください。
 ＊物の類に属することを！
 ④すべてのヒントが終了したら、あるいはヒントをすべて読み終わったらゲームは終了。
 問題を解答する時は、ヒントの漢字をすべて使用してその人物の名称をします。

★ヒントの作り方
 ・先生から与えられた歴史上の人物について、知っていること（キーワード）について考えてください。
 ・さらに質問欄・資料欄を参照してキーワードを絞ってください。
 ・選り出したキーワードを、漢字一文字で書いてください。

★注意
 ①ヒントは紙の中で置かれるようにすること。
 ②ヒント一つが表れるように区切って置きます。（ヒント同士が重なって読めないように）
 ③お題の人物の名前の漢字をヒントには含まないこと

ヒント一つ目で正解したら・・・ 5ポイント！
 ヒント二つ目で正解したら・・・ 4ポイント！
 ヒント三つ目で正解したら・・・ 3ポイント！
 ヒント四つ目で正解したら・・・ 2ポイント！
 ヒント五つ目で正解したら・・・ 1ポイント！
 ヒント六つ目で正解したら・・・ 0ポイント！

ヒントをすべて出して正解が出なかったら
 問題を出した順番にペナルティとして
 -3ポイント

【歴史ワークシート】 1年 組 番 名 姓

名前：

①お題の人物

②ヒントつくる！（人物のこと以外に年代の特色を調べるヒントも考えましょう）
 その人物のキーワード

③人物の説明

★答欄の答え

1問		5問	
2問		6問	
3問		7問	
4問			

解答欄 A 〇 B × C 〇 D ×
 1問の正解は A・B・C・D
 2問の正解は A・B・C・D
 3問の正解は A・B・C・D

提出

VI 研究の成果と課題

本研究では、学習に対して受け身である、自分の考えを自分の言葉で表現できないなどといった生徒に、自ら意欲的に学んだり、考え、判断して表現したりするといった主体的な学習を促すにはどのようにすればよいか、どのように授業を改善したらよいかという課題から、仮説として三つの視点を単元計画や授業づくりに取り入れることで、生徒の変容を自指した。

1 研究の視点(1)について

第1の視点である、「単元計画の段階で、1単位時間ごとの授業を通して確実に習得させたい知識、概念や技能を明確にし、意図的・計画的に配置し、指導する」ことについては、中教審答申の中学校社会科の改善の基本方針に「習得すべき知識、概念の明確化を図る」ことが示されているように、社会科の授業計画を作成していく上で欠かせない視点である。学習の基礎・基本となり得る知識や技能を教師が常に意識し、授業内でスパイラルとなるように扱っていくことで、又は、内容によっては重複を避けることで、限られた授業時数の中で生徒に確実な知識を身に付けさせることができると考える。本研究では、単元計画の中に知識（●）、概念（■）、技能（▲）という形で表示したことにより、習得させる重要な事項について構造化・焦点化した授業を行うことができた。地理的分野の検証授業では、習得させたい知識を獲得させるための資料（分布図）を、今までに学んだ知識や技能を活用して、自分たちで作成したことが、理解を深めるのに効果があった。また、この分布図を基にして、火山の分布と世界の主な山脈の分布とがほぼ一致していることを導き出し、「造山帯」という概念を理解させることにつなげることができた。

2 研究の視点(2)について

第2の視点は、「習得した知識、概念や技能を確かなものにするために、既習事項や本時内で習

得した知識・技能等を活用し、主体的に学ぶ場面を設定する」ことであった。地理的分野の検証授業では、地震の多い地域を、地図帳を活用して表現したり、既習の大陸名や海洋名、州や国家の名前を利用して表現したりする活動を取り入れた。歴史的分野の検証授業では、小学校で学習した歴史上の人物の知識や、資料を活用して調べる活動を取り入れた。どちらの活動においても、生徒は既習の知識や技能を活用し、課題を解決しようと意欲的に活動していた。知識や技能を繰り返し活用することにより、学習を進める上で必要な知識や技能が身に付き、自分で目標を達成できたという経験を重ねることで、生徒に自信も付いていると考える。また、グループ活動を中心とした学習展開を行ったため、既習知識の定着が十分でない生徒も、グループ構成員の支援で、学習内容の理解が進んだと考えられる。

さらに、生徒が自ら調べる主体的な活動を取り入れる中で、生徒は習得した知識や技能を用いて必要な情報を取捨選択したり、関係する情報を結び付けたりして答えを導き出そうとした。検証授業やその単元だけでは実践の積み重ねが少ないということもあり、飛躍的な変容が見られたとは言い難いが、生徒が書いたワークシートの記述を単元の学習が進むにつれ分析していくと、初めは単語しか書くことができなかつたり、短い文しか書くことができなかつたりした生徒が、理解した内容を文章で表現できるようになっているという変容が見られた。今後このような学習活動を継続することで、より多くの生徒に変容が期待できると考える。

3 研究の視点(3)について

第3の視点は、「思考力・判断力・表現力を育むために、既習事項や本時内で習得した知識・技能等を活用し、主体的に考察したり表現したりする場面を設定する」ことであった。地理的分野の検証授業では、資料を基に地震が多い地域の共通点を見い出し、話し合う活動を行った。歴史【「社会科の授業に関するアンケート」の結果から(抜粋)】

Q2	社会科の授業では自分の考えをまとめ、意見をもつように心がけている。
Q3	自分は社会科の授業でよく発言している。

○地理的分野 検証授業実施クラス生徒の変化

<授業前>		Q3		→	<授業後>		Q3	
		YES	NO				YES	NO
Q2	YES	4	21		Q2	YES	22	7
	(%)	11.8	61.8			(%)	64.7	20.6
	NO	1	8			NO	4	1
	(%)	2.9	23.5			(%)	11.8	2.9

○歴史的分野 検証授業実施クラス生徒の変化

<授業前>		Q3		→	<授業後>		Q3	
		YES	NO				YES	NO
Q2	YES	8	8		Q2	YES	15	2
	(%)	30.8	30.8			(%)	62.5	8.3
	NO	3	7			NO	3	4
	(%)	11.5	26.9			(%)	12.5	16.7

的分野では、集めた情報を基に歴史人物を漢字で表現し、他のグループにその人物が分かるようにヒントを出す順番を話し合う活動を行った。

検証授業の事前・事後アンケートの結果からは、いずれの学級においても、検証授業やその単元の学習を通して、自分の意見をもつように心がける生徒や発言を積極的にするようになった生徒が増加していることが読み取れる。特に、今まで自分なりに考えてはいるものの発言ができなかった（Q2=YesかつQ3=Noと答えた）生徒や、自分の意見をもたず、発言もしなかった（Q2=NoかつQ3=Noと答えた）生徒が大幅に減少している。このことから、自分の調べたことや考えたことを生徒同士で意見交換し合う機会を与えたことにより、発表することへの抵抗感が弱まり、自分の意見を積極的に表現できるようになったと考えられる。また、これまでも積極的に発表していた生徒は、他の生徒の意見を聞くことで、自分の見方や考え方が更に深まったり広がったりしていると考えられ、更に主体的な学習が進んでいると考えられる。

検証授業における生徒観察の結果では、地図帳や資料集などを自ら積極的に調べて発表しようとしていた、これまで社会科が苦手な生徒が積極的に発言していたなどの事例もあった。このように、主体的な活動場面を取り入れることによる思考力・判断力・表現力の向上のほかに、授業への参加意欲の向上にもつながっていると考えられる。

以上のように、単元を通して習得させるべきことを教師が明確にして習得させた上で、習得したことを活用して主体的に調べたり考察したり、表現したりする活動を授業に取り入れていくことで、知識の深まりや自ら調べ考えたり表現したりする力の育成につながり、生徒に自信を付けさせ、生徒の学習意欲を高める効果があることが研究の成果として得られた。

課題として次のようなことが挙げられる。

第一に、生徒が調べたり話し合ったりするグループ学習で、教師は活動内容を明確にし、的確な指示を出し、また、生徒の発達段階や学習状況を把握する必要がある。限られた授業時数の中でこのような主体的な学習を促すためには、資料の吟味やワークシートの工夫などの周到な授業準備が求められる。そして、一定時間繰り返し行い、習慣化していくことで、更に高いレベルの活動が見込まれるという面があることから、単元ごと、又は3年間を見通して意図的・計画的に授業を考えていく必要がある。

第二に、グループの編成の仕方である。グループの形態や人数により、学習効果は変わってくる。また、グループ内の学力差が大きい場合、グループ編成の仕方にも配慮する必要がある。教師が一人一人の生徒の学習状況を把握した上で、グループ編成をする必要がある。

第三に、評価との関連である。指導と評価の一体化を図るため、細やかな机間指導、ワークシートの活用による個別の支援をする必要がある。また、生徒が資料を活用して獲得した知識や自ら事項を関連付けて考え習得した知識は、単なる用語・語句レベルの知識ではないことに注意しなければならない。教師は、生徒が授業内で獲得した知識の深まりを、授業観察やワークシートで評価したり、定期考査等の問題にも資料を活用する力を見る問題を取り入れたり、資料から分かることや既習知識を用いて説明させたりする問題を取り入れるなど、授業改善に沿う形での評価をする必要がある。

平成23年度 教育研究員名簿

中学校・社会

地区	学校名	職名	氏名
世田谷区	東深沢中学校	主任教諭	船田 千雅
杉並区	向陽中学校	教諭	金城 和秀
北区	赤羽岩淵中学校	主任教諭	磯貝 達也
江戸川区	東葛西中学校	教諭	関 眞規子
立川市	立川第一中学校	教諭	渡邊 智紀
小平市	小平第五中学校	主幹教諭	○八木 修
狛江市	狛江第一中学校	教諭	諸伏 哲
武蔵村山市	第五中学校	教諭	佐野 貴宏

○ 世話人

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課
指導主事 藤田 修史

平成23年度
教育研究員研究報告書

中学校 社会

東京都教育委員会印刷物登録

平成23年度第181号

平成24年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画